

選外佳作の二

蟲の洋服屋さん

菅野 ミチ子

青い草の一杯生えた廣い野原に、てんこむしをかたつむりさ、てふくきたまむしの洋服屋が住んでゐました。てんこむしさんは、赤くて黒い玉の練瓦をしいた丸いお家で、赤地に黒の玉模様のある可愛い、可愛い、お洋服を縫つてゐました。かたつむりさんのお家は、そのお隣りで、うす巻き模様のある四角いお家でした、大勢のかたつむりさん達は、みんなに強い彈が來てもはねつかへず事の出来る防弾チョッキをつくつてゐました。そのお隣りの玉蟲さんのお家は、白い涼しさうなテントで、澤山の玉蟲さん達は青いピカ／＼光るサテンのお洋服を縫つてゐました。又そのお隣りのバラの花の形をしたてふくさん達のお家では、それを着るこ

空を飛ぶ事の出来る黄色な不思議なお洋服を縫つてみました。

或日の事、いつものやうに、皆で歌をうたひながら元氣よくお洋服を縫つてゐるミ、ミここら來たのか汚いお洋服を着た貧乏さうな、お姉さんらしい女の子ミ弟らしい男の子が遊びに來てこんなお話をしてゐました。

「あたし、お隣りの花ちゃんのやうな綺麗なお洋服がほしいわ、今度の八幡様のお祭りに皆んないゝおべべを着るんですもの、あたしも綺麗なお洋服が欲しいわ」

「あゝ僕も兵隊さんのお洋服が欲しいな、兵隊さんのお洋服着てゐないミ、兵隊ごつこに入れてくれないんだもの」

「本當にさうねえ」

「誰かサンタクロースのおぢいさんのやうにくれるさいゝんだだけれぎも」

蟲のお洋服屋さん達は、これを聞いて大變可哀さうに思ひました。それで皆は二人にお洋服を作つてやらうと相談しました。

「もしく嬢ちゃんミ坊ちゃん、わたし達は洋服屋です、お洋服が欲しいなら、私達がつくつて差し上げませう。綺麗な好みのお洋服をつくつて差し上げませう」ミ申しましたので二人はびつくりしてしまいました。こんな蟲に本當にお洋服がつくれるかしらと思つて。それでちよつミ後をふり向くミ、可愛らしいてんミむしさんのお家でも、かたつむりさんのお家でも、てふくさんのお家でも、玉蟲さんのお家でも、皆がそれはく綺麗なお洋服を縫つてゐました、一目それを見た二人はマァ、言つて大聲をあげてしまいました。

「まあ何て綺麗なお洋服でせう」

「まあ何て立派な防弾チヨッキだらう」

「あんな立派なお洋服を着たらまるで王女さまの様だわ」

「あれを着たら本當の兵隊さん見たいだらうな」

ミ大喜びでした。

そこでてんミむしさんやかたつむりさん達は、お姉さんのヨシ子さんミ弟さんの二郎ちゃん

の寸法を計つて縫ひ始めましたが、その縫ひ方の早い事言つたら面白い程で見てゐる間にさんさん縫えてしまひました。ヨシ子さんには、てんこ蟲さんがルビーのやうに赤い地に黒い玉の模様の浮んだ一パイ飾りのある美しい美しいお洋服を、やはり赤い絹の靴、二郎さんには、かたつむりさんが茶色な立派な防弾チヨッキをつくつてくれました。それからもう一つ、てふてふさんは二人に黄色なベールのやうに美しく、それを着る空を飛ぶ事の出来るお洋服をつくつてくれました。

二人は大喜びでそれを着るさまるで見違へる程立派になりました、ヨシさんはまるで王女様のやうですし、二郎さんは戦争に行く兵隊さんの様でした。二人は皆に有難たうを何度も言つて、てふてふさんにいただいたお洋服をその上に着て、空を飛んでお家へ歸りました。

さあお家へ歸るさお父さんもお母さんも、お隣の叔父さんも叔母さんも又その隣の叔父さんも叔母さんも大變驚き、二人は村中町の評判になりました。あんまり見事なので、町の人達は我もくミ野原の蟲の洋服屋さんのところへあつらへに行きました。さうして八幡様の

お祭りの時は皆着飾つてまるで花が咲いたやうでした。

さうしてだん／＼此の事がこの國の王様のお耳にきこえました。そこで王様は、澤山の兵隊さんがお隣りの國に戦争をする時に必要な防弾チョッキをかたつむりさんのところへ、又飛行機のかはりに空を飛ぶ着物をてふ／＼さんのところへ澤山御注文になりました。

それから王様の式の時に着る立派な青いマントを、お后様のイブニングを玉蟲さんのところへ、可愛らしい王女様のよそ行きのお洋服をてんこ蟲さんのところへ御注文になりました。

それで野原のてんこむしさんも蝶々さんもかたつむりさんも、玉蟲さんも皆大變繁昌してその後も楽しく仲よく暮しました。